



1st community
わたらせ

広報紙第18号

“だより”

古河歴史博物館発

発行 古河第一地区コミュニティわたらせ
広報部会
2023.3.1

かえってきた 堀川 國廣
HORIKAWA KUNIHIRO

新刀の祖と称されている安土桃山時代の刀工堀川國廣は、享祿4年(1531)日向国に生まれ、各地を遍歴し作刀の技を磨き、京都堀川一条に定住しました。足利滞在時は、のちに古河藩主土井利勝に仕えることとなる長尾家のために、足利学校において鍛刀をしています。
戦国末期の足利・館林城主であった長尾顕長は、後北条氏臣従の証として贈られた本作長義の写しを堀川國廣に作らせました。いわゆる「山姥切國廣」です。顕長は、小田原落城後、諸国を転々として元和7年8月に病死しましたが、顕長の子、宣景が土井利勝に仕官、土井家中となった宣景は大坂の陣にて活躍、知行1200石を与えられています。古河藩土井家の家臣となった宣景以後の長尾家は、その後も土井家の上級家臣の地位を占め、後に家老を輩出するにいたりました。
平成26年(2014)、堀川國廣に着目してすでに特別展「堀川國廣とその一門」を開催している古河歴史博物館では、初期江戸幕府の重鎮であった古河城主土井利勝と長尾家の歴史的背景に因み、本年、特別展「かえってきた堀川國廣」を開催することになりました。この展覧会から、國廣作品のさらなる魅力を再発見していただければ幸いです。前回以来展示のなかった刀工堀川國廣の名作を新しい展示とともに紹介いたします。

2023 3.18(土) - 5.7(日)

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

入館料 一般 1,000円

小中高生 100円

休館日 4/3日・10日・17日・24日・27日・28日・5/1日

記念講演会

4月16日(日)14:00開演

講師 岩田隆 元(財)日本美術刀剣保存協会調査課長

演題 「堀川 國廣について」



かえってきた 堀川國廣 × 刀剣乱舞ONLINE
コラボレーションが決定！！

堀川國廣の刀が25振展示されることを記念し、コラボが決定いたしました。

- ★「刀剣男士 堀川國廣」の等身大パネルを館内に設置予定。
- ★コラボポストカード無料配布
開催期間中、古河歴史博物館にて入館チケットご購入のお客様にコラボポストカードプレゼント
- ★館内特設ショップにてコラボレーショングッズを販売
- ★「おっかい こんのすけ」撮影会実施
「刀剣乱舞ONLINE」宣伝隊長おっかい こんのすけが古河市にやってきます。
- ★スタンプラリー開催
博物館周辺の施設を巡りスタンプを集めた方には、コラボ缶バッジプレゼント。

詳細は公式Twitterや古河歴史博物館tel 0280-22-5211にお問い合わせください。

第1地区コミュニティ自治会紹介

part16 グリンパーク第一

part17 台町 part18 一丁目牡丹会

グリンパーク第一

グリーンパーク第一自治会は、平成元年に設立した比較的新しい自治会です。他の自治会と違いマンション一棟だけの自治会で、同一敷地内の活動が多く、自治会名もマンション名から取りました。

設立以来33年間にわたり活発に活動してきた実績と歴史がこの自治会の特徴であります。

地球温暖化の影響で全国で災害が多発している昨今、わたらせ川が隣接する第一地区の避難場所としての役割を担うことができないかと考えています。

台町

一丁目牡丹会

ほぼ現在の古河の町割りが出来たのは、江戸時代奥平氏が古河城主なった折であります。元和二年に徳川家康が死去し、翌三年には日光山に環座し、奥平氏による日光街道の整備・武家屋敷や町人屋敷の割り付けなどのまちづくりが急速に行われました。

通り五丁目、脇町十五丁目の整備をし、これが古河市のまちの原型です。最初は大手門の「大」をとって大町と読みましたが、城下の基とし「台町」と呼ばれるようになったそうです。

徳川将軍が、日光社参の時に立ち寄って休息されるために置かれた御茶屋の入口に御茶屋口門がありました。寛永年間の御茶屋の設備は大変手広く立派であったそうです。

明治維新前の御茶屋口は台町通りにあり、門柱がたち番所までの両側は土塀、番所の建物は床も高く瓦葺の厳めしい建物で、国主大名や御老中とかの通行の折に挨拶を受けるところでありました。

時代は戻りますが、日本に医師というものがない時代、23才で「明」に12年間留学をし、医学を学んだ「名医・田代三喜」は古河公方足利成氏に古河に招かれ、現在の台町、増田三喜堂薬局の所に住まいがあったそうです。



江戸中期1760年代の絵図にはすでに「壹町目」の記載が見られます。その後日光街道が整備され街道筋の宿場町、商人街として一丁目・二丁目（河岸を結ぶ江戸町、石町も併せて）発展しました。

明治維新後はインフレに続くデフレ状態に落ち込みました。明治10年頃東京を往復する蒸気船通運丸が利根渡良瀬を航行し、18年には鉄道が開通して街道を往来する旅人も減少し、街道も寂しい時代がありました。その後明治30年頃から日本の輸出の大宗たる製糸業や製茶業（猿島茶）の興隆と共に米穀・肥料・呉服・酒類などの発展と共に物資の集積地として一丁目もまた繁栄をしました。

一丁目は全国にある住居表示の「〇〇町一丁目」ではなく「壹町目」から続く歴史のある町名であります。

自治会の紹介は順不同です。
お時間のある時、是非散策してみたいかですか。
今まで気づけなかった新たな発見があるかもしれませんよ。